

新年の賀詞を申し上げます

昭和二十七年一月

日本幼稚園協会

會から

○新しい年を迎えて、皆さんの健康を祈ります。保育界の発展と、誌友

○年齢の教え方が変わつても、正月の楽しさで変りはありません。新しい年のその始めであることは、子供にとつてもおとなにとつても心から祝うべきです。日々是好日という言葉は、人生の美しい言葉の一つですが、その好日の暦の始めとして、先づ今年の好日始めとすべきです。

○正月が来たから直ぐ年齢が一つ加わるというのではないとしても、今年の誕生日の喜びを先き祝ひして、一つ大きくなる年に入る喜びを、子供らのために祝う心に何んの差支えがありません。四方の子は五才になる年、五才の子供は六才になる年です。

十二月三十一日生れの子でも、その日をきくのも祝ひ、この年を正月にも祝つていていじやありませんか。更に、三百六十五の誕生日を、われの日、ひとの日引きくるめて、正月に一応みんないつしよの祝ひをするのもいじやありませんか。

○理くつてはありません。子どもといつしよにしているものは、常にこんな気もちで正月を迎えずにいられます。

○新年第五十一巻に入るに当つての、本誌の内容の充実をみて下さい。これ一つに寄稿諸氏の賜です。厚く感謝します。保育座談会は、本誌編集陣打ちそろての、誌友諸君へのニューイヤレセブション、パーティーともいうところは、なお、その席で申しあわされたことは、これから毎号協力委員の一人づゝが、保育随想を書こうということでした。そこで籤びきで順番をきめて、

一月山下氏、二月及川氏、三月波多野氏、四月多田氏、五月牛島氏、六月齋藤氏ということになりました。御期待を願います。

○本号は『就学前の二つの課題』として、数の教育と言語の教育につき、畑七蔵氏と石井庄司氏を頼り、くわしい教示を願いました。両氏がそれ／＼の方面における権威者であることは、更めて御紹介を要しません。皆さんも平素から御苦心も御意見

もありましょう。充分研究的態度を以て両論文を御精読下さい。

○今年から編集の体裁その他について多少かえてみました。よみよいように、気持ちよく読んでいただけるように——お気づきの点は御寄せ下さい。

幼児の教育 第三巻 第一號

定価 金五拾四

昭和二十七年一月二十日發行

東京都中野区千光前町一〇

編集者 倉橋 惣三

發行所 東京都文京区大塚町三十五

お茶の水女子大学附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

東京都千代田区神田神保町二ノ四

發賣所 株式會社 フレーベル館

振替東京一九六四〇番

○本誌御購讀について注文申込その他はすべて發賣所「フレーベル館」に願います。